

# 第1章 学校（園）教育充実のための基本事項及び本年度の重点

## 「第3期富山県教育大綱」 （第4期富山県教育振興基本計画）

### 基本理念

生涯にわたる学びを通して、県民一人ひとりのウェルビーイングを高める

### 教育方針

- 1 一人ひとりの可能性を引き出す質の高い教育の実現
- 2 多様なニーズに対応したきめ細かな教育と支援の展開
- 3 子どもたちの学びを支える教育環境を構築
- 4 社会の持続的発展に向けて学ぶことのできる機会の提供

### 主な施策の方向性

- (1) 子どもの才能や個性を伸ばす教育の推進
- (2) 様々な体験を通じた社会で生きる力の育成
- (3) 私立学校や高等教育機関の振興
- (4) 誰一人取り残されない多様性と包摂性のある教育の推進
- (5) 学校・家庭・地域で取り組む子どもの健やかな成長の支援
- (6) 学校の特色と魅力を高め、安全で快適に学べる学校づくり
- (7) 教師が意欲と能力を高め、子どもと向き合える環境づくり
- (8) スポーツや文化芸術に親しむ機会の充実
- (9) 生涯にわたる多様な学びの推進
- (10) 地域に学び地域の創生につながる活動の推進

### 学習指導要領改訂の ポイント（現行）

- 社会と連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。
- 子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する。
- 知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成する。
- 豊かな心や健やかな体を育成する。

### 「令和の日本型教育」 の構築を目指して （答申）

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 誰一人取り残すことなく全ての子供たちの可能性を引き出す

## 一人一人を見つめ、育てる

### 【基本事項】

豊かな人間性と好ましい人間関係を育成し、一人一人の人格の完成を目指す学校教育の指導にとって欠くことのできない事柄であり、常に基底に据えて諸活動を展開するように努める。

- 1 創意工夫を生かした柔軟な教育課程の編成と適正な実施
- 2 知識及び技能の確実な習得とともに、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養を図る学習指導の充実
- 3 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成
- 4 生命と人権を大切にする教育の徹底と豊かな心を育てる道徳教育の充実
- 5 自己指導能力を身に付けた児童生徒を育てる生徒指導の充実
- 6 体力の向上及び健康・安全に関する指導の充実
- 7 特別な配慮を必要とする幼児児童生徒への指導や支援の充実
- 8 家庭や地域社会と連携・協働する学校（園）づくりの推進
- 9 幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携や交流の推進
- 10 教師としての資質能力を高めるための研修の充実

### 【本年度の重点】

#### 【重点1】

確かな学力の育成

－「とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)」の推進－

#### 【重点2】

豊かな心の育成

－「いのちの教育」を核として－

#### 【重点3】

健やかな体の育成

－「元気っ子育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進－



# とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）の視点を踏まえた授業づくりのポイント



## とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期） R5～

### 確かな学力

#### 問題発見・解決能力の育成

とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）では、「問題発見・解決能力」の育成を目指し、「子供の問題（課題）意識を高める」「子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする」の二つの視点を基に授業改善に取り組むこととしています。どのような子供の姿を目指して授業づくりに取り組めばよいか、これまでの授業を見つめ直してみましよう。そして、学習者中心の授業づくりに向けた取組を進めていきましょう。

#### 【授業改善の視点】

##### 視点1 子供の問題（課題）意識を高める

＜教師の手立て（例）＞

- ・導入での事象の提示や学習環境の工夫
- ・既習事項との違いを確認する場の工夫 等



・なぜだろう。  
 ・今までと違うぞ。どうしてだろう。  
 ・できる、分かるようになりたい。もっと知りたい。

##### 視点2 子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする

※自己調整：課題解決の過程で、自分の学習状況を把握し他の子供と話し合うなどして、方向性を見直したり、必要な内容等について考えたりすること 等

＜教師の手立て（例）＞

- ・活動の見通しをもたせる工夫
- ・情報を収集・選択し、考えをもたせる工夫
- ・一人一人の問題解決に生きる対話の工夫
- ・考えを分かりやすくまとめ、表現させる工夫
- ・自己の活動を振り返らせたり、身に付いたことを自覚させたりする場の工夫 等



・〇〇してみよう。次は△△していけばよさそうぞぞ。  
 ・ここは、まだよく分からないから調べよう。  
 ・みんなは、どう考えたかな。聞いてみたいな。  
 ・みんなに言いたいことが伝わるかな。  
 ・ここまで分かったぞ。次は、□□してみよう。

・学びに向かう力の高まり

・自己肯定感の向上

・もっと考えたい。  
 ・あきらめないでよかった。また、がんばろう。

#### 家庭学習へのつながり

・もう1回やってみよう。  
 ・難しいかもしれないけれど、挑戦しよう。

#### ＜問題発見・解決能力を身に付けていく子供の姿の例＞

問題発見・解決能力を身に付けていく子供の姿は、必ずしも以下の順にみられるわけではありません。学習の状況に応じて繰り返しみられたり、行き来したりすることも考えられます。

##### 興味・関心をもつ

- ・心が動く（感動、驚き等）
- ・疑問を感じる

##### 課題を見いだす

- ・気付く
- ・ずれを感じる
- ・追究したくなる問いまで高める

##### 課題解決への見通しをもつ

- ・目当てをもつ
- ・ゴールをイメージする
- ・進め方を考える

##### 考え、判断し、解決していく

- ・自分事として捉える
- ・比較、関連付ける
- ・試行錯誤し、自らの学習を深める
- ・考えをまとめ、伝え合う

##### まとめと振り返りをする

- ・課題に対する学習内容をまとめる
- ・学び方を振り返る
- ・身に付いた力に気付く
- ・新たな気付き、見通しをもつ

#### ＜教師の具体的な手立ての例＞

目指す子供の姿に向けて単元を構想する

- ・子供に身に付けさせたい資質・能力の確認
- ・子供の実態、教師の願い、教材の特性を意識した全体計画の作成
- ・指導事項を踏まえた評価場面の位置付け

子供が課題をもつための場や環境を設定する

- ・引き出した問いや願いから、子供自らが追究したくなる課題づくりへの後押し
- ・学習への期待感を高める事象の提示や学習環境づくり

単元を通して、子供の問題（課題）解決の意識の持続・向上を図る

- ・授業で扱う材料や用具等の工夫、場所や時間の柔軟な設定
- ・子供のつまづきを想定した複数の手立ての準備
- ・既習事項との違いに気付かせる発問や板書計画づくり

子供が主体となって学び進めるための場や機会を設ける

- ・子供が追究に応じて選択できる、教材、方法、進め方等の工夫
- ・子供が必要なときに、必要な相手と対話したり、協働したりできる場面の設定
- ・収集した情報を整理・分析し、まとめ・表現する機会の充実

子供一人一人の学びの状況を把握する

- ・問題解決の見通しがもっているかの見取りと声かけ
- ・端末やノート等で子供の考えの確認
- ・子供が付けたい力に向かっているかの状況確認

子供が成果や課題を自覚するための視点や場を設ける

- ・振り返る観点・視点の明確化
- ・子供が次の活動の見通しをもつための振り返りの活用

各学校による主体的な学力向上の取組の推進（Ⅱ期） PDCAサイクル H25～R4

I期を根底に置く

学力の向上と人間関係づくりを一体的に進める「学び合い」（Ⅰ期）H20～H24 実感を伴った理解につながる「体験」の重視

＜授業改善の視点＞

○ねらいを明確にした授業の構想 ○目的を明確にした書く活動 ○終末における学習成果の確認

#### 学びの土台

幼児期から育む非認知能力※の例

##### 自分を高める力

意欲、好奇心、創造性等

##### 自分と向き合う力

自己肯定感、自制心、やり抜く力等

##### 他者と関わる力

コミュニケーション力、協調性、思いやり等

※非認知能力とは、学力テスト等で数値化しにくい、内面的なスキルや特性を指します。

※□（チェック欄）を活用して、自分の授業を振り返り、自己理解を深めましょう。

※子供の姿を思い浮かべながら、教師の願いを明確にし、手立てを考えましょう。授業後に、自分の授業を評価し、改善を図りましょう。

※Memo欄には、＜例＞を参考に授業づくりのアイデアや授業で行った手立てを書きためるなどすることで、自分の記録として使うこともできます。

＜問題発見・解決能力を身に付けていく子供の姿の例＞

順不同、状況に応じて繰り返したり行き来したり

興味・関心をもつ

- ・心が動く（感動、驚き等）
- ・疑問を感じる



課題を見いだす

- ・気付く
- ・ずれを感じる
- ・追究したくなる問いまで高める



課題解決への見通しをもつ

- ・目当てをもつ
- ・ゴールをイメージする
- ・進め方を考える



考え、判断し、解決していく

- ・自分事として捉える
- ・比較、関連付ける
- ・試行錯誤し、自らの学習を深める
- ・考えをまとめ、伝え合う



まとめと振り返りをする

- ・課題に対する学習内容をまとめる
- ・学び方を振り返る
- ・身に付いた力に気付く
- ・新たな気付き、見通しをもつ



教師は、子供の姿を見取り、授業改善の視点1・2を基に具体的な手立てを工夫

目指す子供の姿に向けて単元を構想する

- 子供に身に付けさせたい資質・能力の確認
- 子供の実態、教師の願い、教材の特性を意識した全体計画の作成
- 指導事項を踏まえた評価場面の位置付け

＜例＞

子供が、学習課題を自分事として捉え、学んだことを生活に生かしていけるようにしたい



単元に関連する他の教科・領域等の学習内容等を位置付けた教科等横断的な視点での単元構想

毎時間のねらいを明確にした振り返りワークシートの作成

Memo (私の工夫や手立てなど)

単元を通して、子供の問題（課題）解決の意識の持続・向上を図る

- 授業で扱う材料や用具等の工夫、場所や時間の柔軟な設定
- 子供のつまづきを想定した複数の手立ての準備
- 既習事項との違いに気付かせる発問や板書計画づくり

＜例＞

単元を通して追究し続ける共通の学習課題を子供と一緒に作り上げたい



1人1台端末で各自の疑問を全体共有

子供の考えをつなぐ意図的指名で、解決したいことを明確化

Memo (私の工夫や手立てなど)

子供一人一人の学びの状況を把握する

- 問題解決の見通しがもてているかの見取りと声かけ
- 端末やノート等での子供の考えの確認
- 子供が付けたい力に向かっているかの状況確認

＜例＞

子供が課題を解決するために、個に応じた手立てを講じたい



1人1台端末で子供の思考の流れの確認と学びの見取り

学びの進捗状況に応じた声かけ

Memo (私の工夫や手立てなど)

子供が課題をもつための場や環境を設定する

- 引き出した問いや願いから、子供自らが追究したくなる課題づくりへの後押し
- 学習への期待感を高める事象の提示や学習環境づくり

＜例＞

子供の興味・関心や課題意識を高め、どうしてだろうという疑問と、自ら解決したいという思いをもてるようにしたい



既習事項とのずれを感じたり、自分の考えと友達の考えを比較したりするなど、疑問や気付きを生み出す発問や事象の提示

予想や仮説を引き出す問いかけ

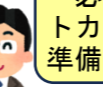
Memo (私の工夫や手立てなど)

子供が主体となって学び進めるための場や機会を設ける

- 子供が追究に応じて選択できる、教材、方法、進め方等の工夫
- 子供が必要なときに、必要な相手と対話したり、協働したりできる場面の設定
- 収集した情報を整理・分析し、まとめ・表現する機会の充実

＜例＞

子供が自分の考えをもち、自分に合った学び方で学習することができるようにしたい



班で交流したり、友達に聞きに行ったり、教師と一緒に考えたりするなど、自由に選択しながら学び進める柔軟な授業展開

必要に応じて活用できるヒントカードや写真、資料掲示等の準備

Memo (私の工夫や手立てなど)

子供が成果や課題を自覚するための視点や場を設ける

- 振り返る観点・視点の明確化
- 子供が次の活動の見通しをもつための振り返りの活用

＜例＞

自分の学びの深まりを実感し、他の子供の振り返りから新たな考えに気付くことができるようにしたい



1人1台端末に入力した「学習課題に対するまとめ」と「学び方についての振り返り」の全体共有、学びの価値付け

学びの質を振り返るよう習慣化

Memo (私の工夫や手立てなど)

# 「認知能力」と「非認知能力」の一体的な育成 ～「非認知能力」が子供を伸ばす～

あらゆるものが目まぐるしく変化し、予測ができない時代において、子供たちが学び続けるためには、知識だけでなく、困難を乗り越える力、挑戦する意欲、感情のコントロール等の「非認知能力」といわれる力も身に付けていくことが必要です。

## ◎非認知能力とはどのような力なのだろう



認知能力と非認知能力は互いに影響を与え合いながら、一体となって育ちます。

### 認知能力

#### 見える学力

読み書き計算など、点数やIQ等で表現される力



### 非認知能力

#### 見えない学力

学力テスト等で数値化しにくい、内面的なスキルや特性等、「認知能力」以外の力



#### 自分を高める力

意欲、好奇心、創造性等

#### 自分と向き合う力

自己肯定感、自制心、やり抜く力等

#### 他者と関わる力

コミュニケーション力、協調性、思いやり等

## ◎非認知能力はどのように伸ばせばよいのだろう



教師は、子供の意識につながるような励ましや言葉かけを行うことが大切です。子供が自らの意識で行動を変え、それを習慣化することが、非認知能力を自ら伸ばすことにつながります。

〇〇したい！  
こうなりたい。

教師の見取りとフィードバック  
(教師による直接的な意識付け)

授業、学校行事等での経験  
(教育活動による間接的な意識付け)

自分自身をモニタリングして意識して行動をコントロール

望ましい  
行動特性へ  
(習慣化された行動)

## ◎授業ではどのように取り組めばよいのだろう



認知能力と非認知能力の一体的な育成を図るため、児童生徒の感情を動かす(「なぜだろう」「できる、分かるようになりたい」等)ための仕掛けを考えることが大切です。

〈教師の具体的な手立ての例〉

- ・子供が課題を見い出すために、身近な生活と結び付ける。
- ・子供の問題(課題)解決意識の持続・向上を図るために、既習事項との違いに気付かせる。
- ・子供が主体となって学び進めるために、グループ活動を取り入れる。

もっと難しい問題に挑戦してみたいな。

自分を高める力の向上

最後まであきらめずに粘り強く取り組めるようになったな。

自分と向き合う力の向上

もっといろいろな人の意見を聞いて考えてみたいな。

他者と関わる力の向上

難しいな。僕に解けるかな。

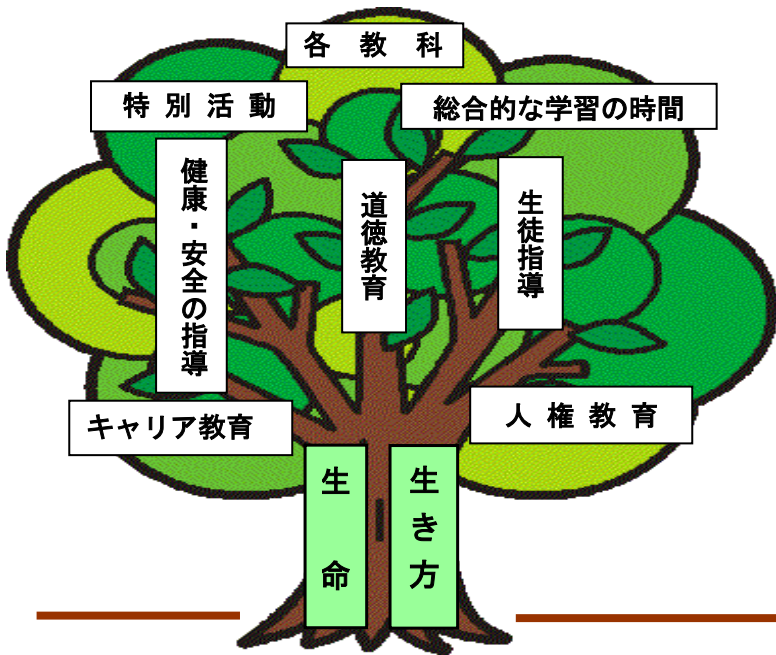


## 【重点2】 豊かな心の育成

### －「いのちの教育」を核として－

一人一人の自尊感情を高め、よりよく生きようとする態度を培うなど、「いのちの教育」を核とした教育活動を通して豊かな心を育むことが大切である。

#### 「いのちの教育」は教育活動全体を通して



富山県教育委員会では、「いのち」という言葉に、かけがえのない「生命」と人間としてよりよく生きようとする「生き方」という二つの意味を込めている。

「いのちの教育」は、学校における教育活動全体をいのちの視点から捉え直したものであり、日々の教育活動の中で、子供たちが、人や自然、社会と関わる体験を通して、自他のいのちがかけがえのないものであることを実感するための教育である。

#### 《 「いのちの教育」推進のための視点 》

子供たちが自分の中のよさや可能性に気づき、他とのつながりを実感する。

自尊感情を高めることで生きている喜びを感じることができるようになる。他との関わりを通して、他と共に生きている存在であるという思いをもつようになる。

教師自身が自分のいのちと向き合い、自分の生き方を自分自身に問いかける。

教師自身のいのちに真摯に向き合う姿勢が、子供たちのいのちへの感性や想像力を育む大切な環境となる。

学校と家庭、地域が確かな信頼関係を築き、連携しつつ共に学ぶ意欲をもって取り組む。

学校で実践されている「いのちの教育」の考え方を家庭や地域と共有することにより、子供たちの学習や体験が豊かなものとなる。

#### 指導のポイント

##### ・認め励まし合う機会の充実

自分自身をかけがえのない大切な存在だと思えることができる自尊感情を育む。

##### ・喜びや悲しみ等の感情を仲間と共有する機会の設定

かけがえのないいのちの尊厳を実感できる豊かな感性や想像力を育む。

##### ・いのちを守るための知恵の習得と態度の育成

いのちを脅かす行為や情報に対して、未然に防いだり、被害を最小限にくいとめたりする知恵を習得させる。

## 【重点3】 健やかな体の育成

### －「元気っ子育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進－

目指す「とやま元気っ子」	
幼稚園	… 運動遊びが大好きな幼児
小学校	… 運動が大好きな児童
中学校	… 進んでスポーツに取り組む生徒



「元気とやまマスコット きとくと君」

©富山県

各学校（園）が、体力の向上と健康の保持増進を目指して作成する「元気っ子育成計画」の中に、「運動機会の確保」「望ましい生活習慣の形成」の視点を取り入れ、各学校（園）、家庭が共通理解し、地域と連携して重点的に取り組むようにする。

## 健やかな体の育成

### 運動機会の確保

体力の向上につながる運動機会を確保する。

- ・運動の楽しさや喜びを味わえる体育の授業（遊び）の充実
- ・運動（遊び）に親しみ、意欲を高める体育的行事の充実
- ・家庭や地域と連携した環境づくり

幼児児童生徒を取り巻く環境の変化により、体を動かす機会が減少し、平成30年以降、体力が低い水準で推移している。

体力の向上には、幼児児童生徒が、運動する楽しさを味わえるような運動機会を確保していくことが必要である。

### 望ましい生活習慣の形成

健康の保持増進につながる望ましい生活習慣を形成する。

#### ＜健康三原則の徹底＞

- ・調和のとれた「食事」
- ・適切な「運動」
- ・適切な「休養・睡眠」

毎日を健康に過ごすには、調和のとれた「食事」、適切な「運動」、適切な「休養・睡眠」が必要である。

健康に対する正しい知識を身に付けさせるとともに、それらを活用する学習活動を取り入れるなど、指導方法を工夫し、望ましい生活習慣の形成に結び付くようにすることが大切である。

## 「元気っ子育成計画」による取組例

実態の把握

- ・前年度の数値指標の達成度の把握
- ・全国及び富山県の体力・運動能力、運動習慣等調査結果の把握
- ・とやまゲンキッズ作戦調査結果の把握

計画の作成

- ・各学校（園）の実態に応じた目指す元気っ子の設定
- ・具体的な取組の検討
- ・数値指標の設定（「運動への興味・関心」「運動習慣の定着度」等の観点で設定）
- ・教育計画等への位置付け

実践

- 体を動かすことの楽しさを実感する取組
  - ・Web アプリとやま元気っ子チャレンジ
  - ・きとくとチャレンジランキング 等
- 体力向上に向けた取組
  - ・目標設定→実行→体力テストで評価→改善（PDCAサイクルの確立）
  - ・苦手種目克服のための1校1運動
  - ・運動の成果が実感できる評価カード
  - ・体育の授業の改善による運動好きな子供の育成 等
- 家庭や地域との連携
  - ・学校だより等による情報提供と共通理解
  - ・地域人材の活用 等
- 実践的な態度を育てる保健指導
  - ・目のリラックス体操
  - ・すいみんチェックカード
  - ・メディア・コントロールの実施 等
- 望ましい食習慣を身に付ける食育の推進
  - ・「毎日しっかり朝ごはん」運動
  - ・食育推進月間での取組 等

評価

- ・達成度、取組状況の調査とまとめ
- ・次年度の「元気っ子育成計画」作成のための見直し

## 「元気っ子育成計画」

運動好きでたくましい心と体をもった幼児児童生徒を育成するために、各学校（園）が家庭や地域と連携して取り組む運動や健康に関する内容をまとめた計画

（「とやま元気っ子育成ハンドブック」 富山県教育委員会 平成18年度）